

子どもたちが狂言を熱演

山内・春のふれあいチャリティーコンサートが3月26日、ダイヤモンド滋賀ホテルで開催され、山内エコクラブの子どもたちが地元の民話を題材にした創作狂言「鈴鹿の子てんぐ」を発表しました。

この狂言は大蔵流狂言師の網谷正美氏により書き下ろされた作品で、同クラブのメンバーは昨年夏から練習を重ねました。いたずらするてんぐの子と村人とのふれあいを描く物語を子どもたちが熱演し、独特の言い回しと大胆な演技が来場者の笑いを誘いました。

このほか、年間を通じて行った川調査での経験をもとに作った絵巻「野洲川物語」消えた鈴をさがせ」も披露されました。

山内・春のふれあい  
チャリティーコンサート



▲創作狂言を披露する山内エコクラブの子どもたち

地域の「食」の可能性を確認

甲賀・湖南食育フォーラム



▲工夫が凝らされた「農の匠」の作品展示

農産物の地産地消活動や、健康づくりを通じた「食育」の推進を目的に、甲賀・湖南食育フォーラムが3月2日、甲賀合同庁舎で開催されました。

この日は、農業関係者、健康福祉関係者や食文化の継承に活動される地域の方など約100人が参加、食育の大切さについて考えました。

フォーラムでは、甲賀もち工房・河合定郎さんからの事例発表のほか、「農の匠」の方による地元農産物を使った加工品、郷土食の展示や健康推進、食育活動グループの紹介などが行われました。

訪れた人は、地元の農産物を使ったいろんなアイデアに、食の新たな可能性を感じることができたようです。

コミュニケーションのあふれるまちへ

滋賀県聴覚障害者  
福祉大会

聴覚障害者の福祉向上の推進、社会参加の促進を目的に、3月6日、あいこが市民ホールで滋賀県聴覚障害者福祉大会が行われました。

県内の聴覚障害者をお持ちの方とその家族、ボランティアの方など約700人が出席。第1部の式典では、聴覚障害福祉に功績があった方への表彰や大会宣言等が行われました。

第2部のアトラクションでは、元阪神タイガースの亀山つとむさんが「明るく、楽しく、元気良く」と題し講演。自らの経験を交えたユーモアあふれる講演に、元気、笑顔の大切さを学ぶことができました。



▲亀山さんのユーモアあふれる講演

土山茶のゼリーを  
園児にプレゼント

ふるさと甲賀七彩ものがたり研究会

お茶を使った料理やデザート作りに取り組む「ふるさと甲賀七彩ものがたり研究会」のメンバーが3月9日、土山開発センターの調理室で土山茶のデザート「茶々ゼリー」を作り、土山地域4保育園の園児にプレゼントしました。

同研究会では20年ほど前から粉末茶を入れた茶々ゼリーを保育園などに贈っています。メンバー4人は温めた牛乳に粉末茶とゼラチンを加えて冷蔵庫で冷やし固め、250人分を調理しました。

「農の匠」にも認定されている福永昭子代表は、「子どもたちがおいしいと言ってくれるのが喜び」と話しています。



▶園児のために茶々ゼリーを作る「ふるさと甲賀七彩ものがたり研究会」のメンバー

人馬一体の妙技に歓声

市指定の無形民俗文化財の流鏝馬神事が4月3日、甲賀町隠岐で行われました。約370年前から続く神事は、その年の稲作の豊凶を占うと伝えられています。

馬乗り人は、20歳から29歳までの男子氏子で、毎年3月1日のみくじ祭の神事によって選ばれます。例祭の3日前からさまざまな古式にならって当日を迎えることになっています。

馬場を駆けるのは5回、1度目は2本の的に向けて矢を放ち、2度目から4度目までは両手を挙げて、5度目は右手に日の丸の扇を広げて持ち、駆け抜けます。

馬が目前を駆け抜ける迫力と馬乗り人の勇壮な姿に歓声と拍手がわき起こりました。

亀山・伊賀・甲賀三市  
交流軟式野球大会



▲3つの市の50歳以上の選手が野球を通じて交流

甲賀中央公園野球場で3月26日、甲賀市と三重県亀山市、伊賀市の交流野球大会が開催されました。古くから街道により結び栄えてきた3つの市がスポーツを通じて交流を深めようと、甲南忍シニアーズの呼びかけで初めて実現したもので、甲賀市の「甲南忍シニアーズ」、伊賀市の「伊賀忍者」、亀山市の「亀山夢球友会」の3チームが参加。時折雪が舞うコンディションの中、選手たちは一足早い球春を楽しんでいました。甲南忍シニアーズの森田敏光監督は、「勝敗よりも交流が目的。これからも続けていきたい」と意欲を見せていました。

街道が結ぶ3つのまち、スポーツで交流深める

椿神社・流鏝馬神事



▶観衆が見守る中、馬が勇壮に駆け抜けた流鏝馬神事